

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 探究・体験活動を通じた「つながる」個別最適な学び 【①】

1 <はじめに>

GIGAスクール構想によって整備されたICT環境を基盤としつつ、探究的な学習や体験活動を積極的に授業に取り入れています。これにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒が孤立することなく、互いに学び合い、成長できる教育の実現を目指しています。

2-1 <事例の概要>

中学2年生の総合的な学習の時間において、探究的な学習活動に取り組みました。この活動は、1・2 学期をかけて行われました。この活動のねらいは、生徒が自分が設定したテーマに関心を持ち、多角的に探究すること、グループワークや地域との連携を通じて、協働して課題を解決する力を養うこと、そして、ICTを活用して情報収集、分析、表現、発信する力を高めることにあります。さらに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させ、学びの深化と社会性の育成を図ることを目指しました。

2-2 <具体的な活動内容>

まず、生徒は自分の興味関心に基づいて、探究するテーマを自由に設定しました。テーマは、文化、自然、産業、食、人物など、多岐にわたりました。次に、興味関心の近い生徒同士で3～4人のグループを編成しました。

テーマ設定やグループ編成においては、オンラインアンケートツールを活用し、生徒の興味関心を効率的に把握しました。

情報収集の段階では、グループごとに街に出て、写真や動画を撮影したり、地域の人々にインタビューやフィールドワークを行いました。また、図書館やインターネットを活用し、文献や資料を調査しました。生徒は、タブレットを活用して、写真、動画、音声などを記録し、クラウドストレージを使って、グループ内で情報を共有しました。

活動の中間地点では、各グループが収集した情報や分析結果を発表する機会を設けました。生徒はプレゼンテーションツールを使って発表資料を作成し、他のグループの発表を聞いて、良かった点や改善点をフィードバックしました。

最終的な成果物として、各グループは探究の成果をまとめたポスターを制作しました。そして、地域の方々、保護者、生徒などを招いて発表会を開催し、自分たちの学びの成果を広く発信しました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 探究・体験活動を通じた「つながる」個別最適な学び 【①】

2-3 <教師の指導・支援>

この活動において、教師は知識を一方向的に教えるのではなく、生徒の探究活動をサポートするファシリテーターとしての役割を担いました。各グループの進捗状況を把握し、必要に応じて個別の指導や助言を行いました。行き詰まっているグループには、情報収集の方法や分析の視点などについて具体的なアドバイスを提供しました。

また、ICTツールの使い方を指導したり、技術的なトラブルに対応したりすることも、教師の重要な役割でした。さらに、地域の方々や専門家との連携をコーディネートし、生徒の学びを深める機会を提供しました。生徒の活動の過程や成果は、多面的に評価し、形成的評価を通じて、生徒の成長を促しました。

3-1 <成果>

この探究・体験活動を通じて、生徒は自分の興味関心に基づいて主体的に学習に取り組むとともに、グループワークや地域との連携を通じて、協調性やコミュニケーション能力、問題解決能力などを高めることができました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立することで、生徒の学びはより深く、豊かになり、社会性も育まれました。

生徒たちは、発信することに大きな喜びと達成感を感じていました。また、地域の方々との交流を通して、自分たちの学びが社会とつながっていることを実感し、学習意欲をさらに高めていました。

3-2 <課題>

課題としては、活動時間の確保、グループワークの質の向上、地域との連携の深化などが挙げられます。特に、グループワークにおいては、メンバー間の意見の対立や、一部の生徒への負担集中などが見られることもありました。

**4 <今後の展望>**

総合的な学習を推進し、他教科との連携を強化するため、教科横断的な学習活動を計画していきます。

また、地域との連携をさらに深め、生徒の学びをより豊かにしていきたいと考えています。地域の企業や団体と連携し、生徒が地域課題の解決に取り組むプロジェクトを立ち上げたり、地域のイベントに生徒が主体的に参加する機会を設けたりするなど、地域社会とのつながりをより強固なものにしていきます。

さらに、ICT活用の高度化も重要な課題です。より効果的なICTツールの活用方法を研究し、生徒の学びを支援していきます。評価方法についても、改善を重ねていく必要があります。生徒の主体性、協調性、問題解決能力などを適切に評価できるような、多面的な評価方法を開発し、生徒の成長をより的確に把握できるようにしていきます。